

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 福島町内の小・中学校の状況及び今後の体力向上策

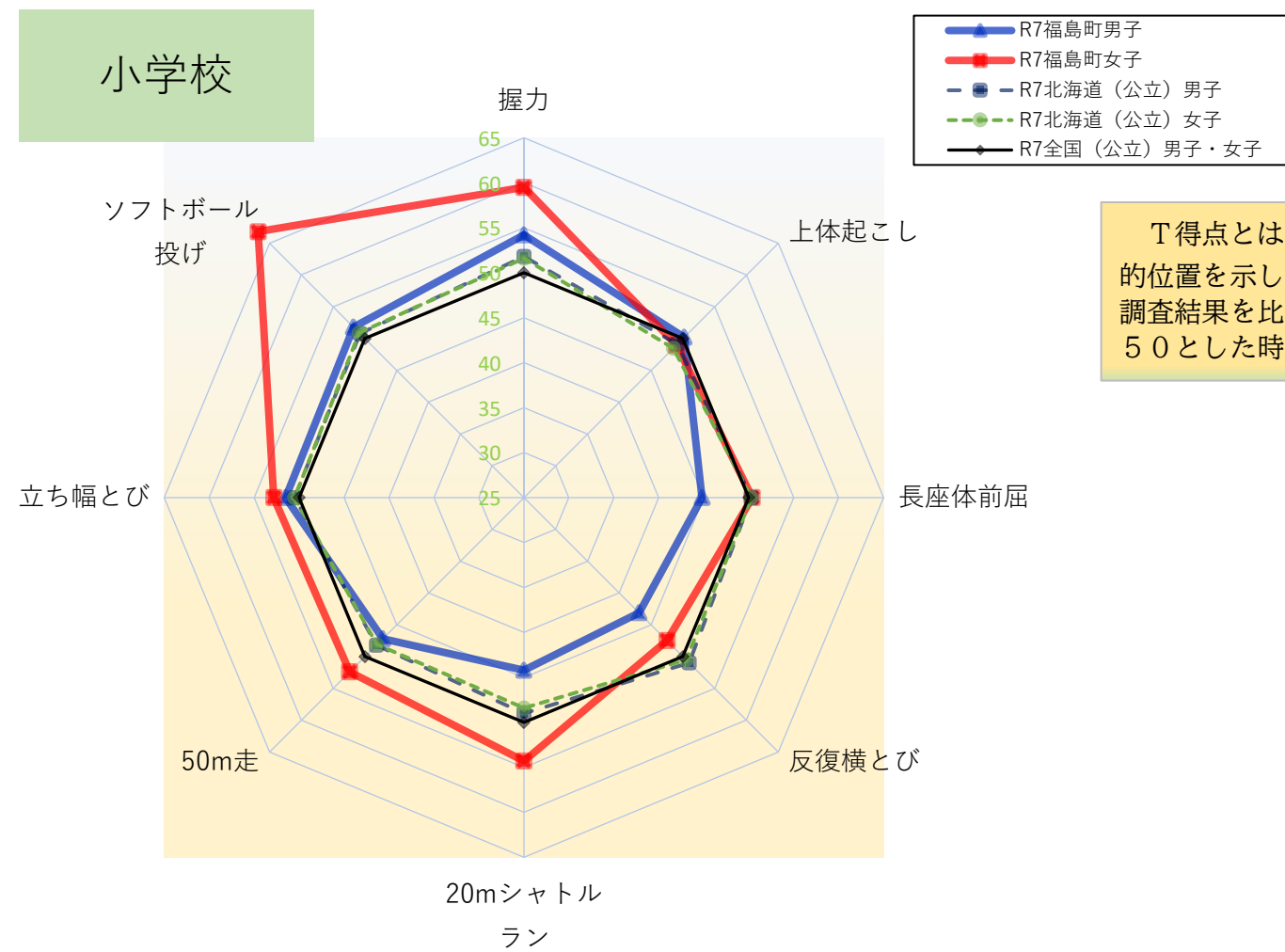
学校数：小学校2校・児童数16名、中学校1校・生徒数9名

○ 実技に関する調査の状況 ・各種目の記録及び体力合計点

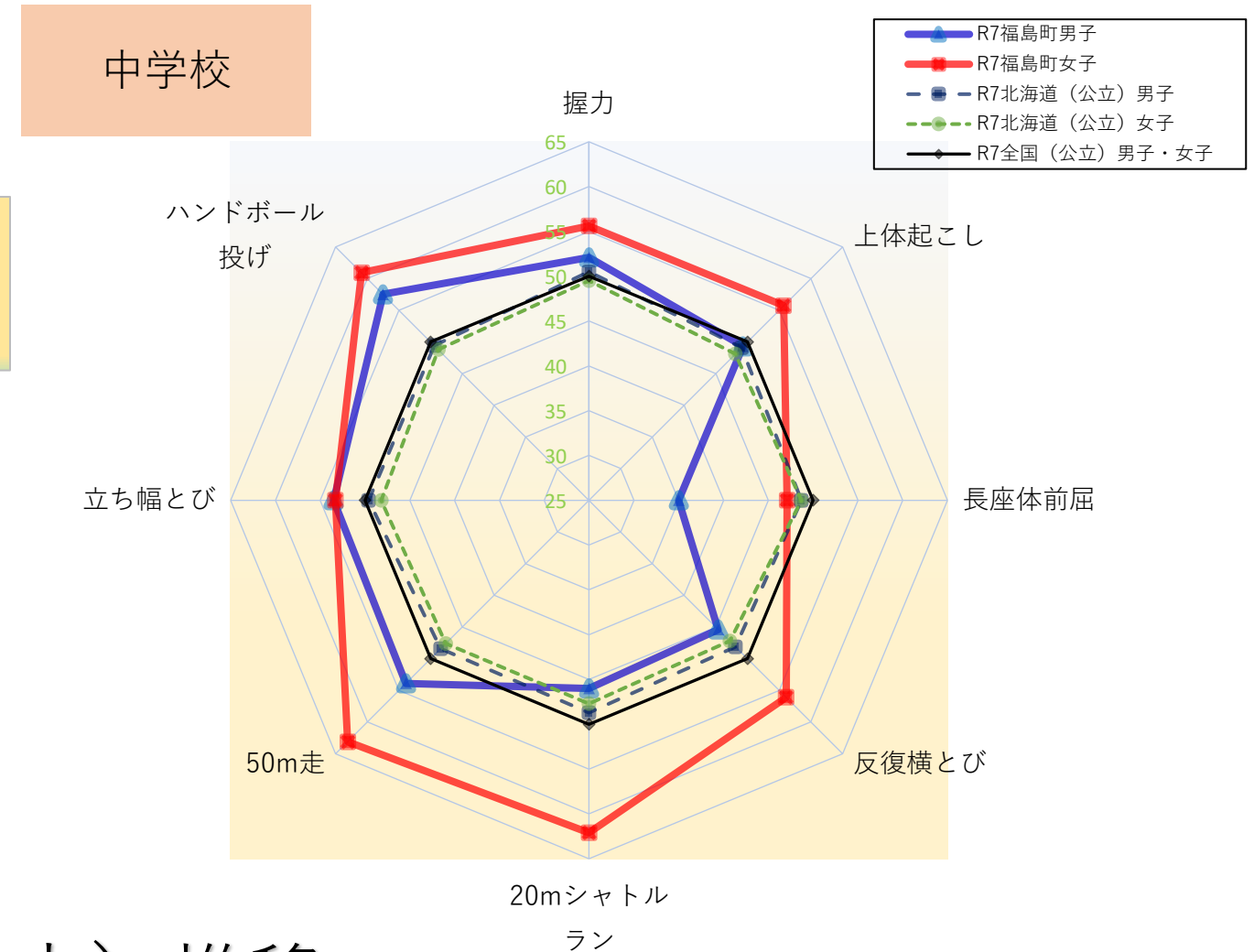
小学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
R7福島町男子	17.60	19.60	29.20	35.00	35.60	9.78	154.80	22.60	51.50
R7福島町女子	19.27	17.82	38.55	36.82	43.73	9.54	149.18	21.09	58.64
R7北海道(公立)男子	16.68	18.90	34.13	41.71	45.85	9.66	152.08	21.72	53.00
R7北海道(公立)女子	16.24	17.54	38.38	39.11	34.35	9.96	143.65	13.56	53.55
R7全国(公立)男子	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
R7全国(公立)女子	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

中学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
R7福島町男子	30.50	25.67	28.00	47.33	68.67	7.63	209.00	25.50	33.00
R7福島町女子	25.83	25.17	43.83	50.50	74.33	7.78	176.00	17.17	59.00
R7北海道(公立)男子	29.32	25.54	43.64	49.85	75.47	8.15	196.24	20.38	40.88
R7北海道(公立)女子	22.89	20.53	45.54	43.55	46.10	9.19	161.40	11.92	44.70
R7全国(公立)男子	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
R7全国(公立)女子	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

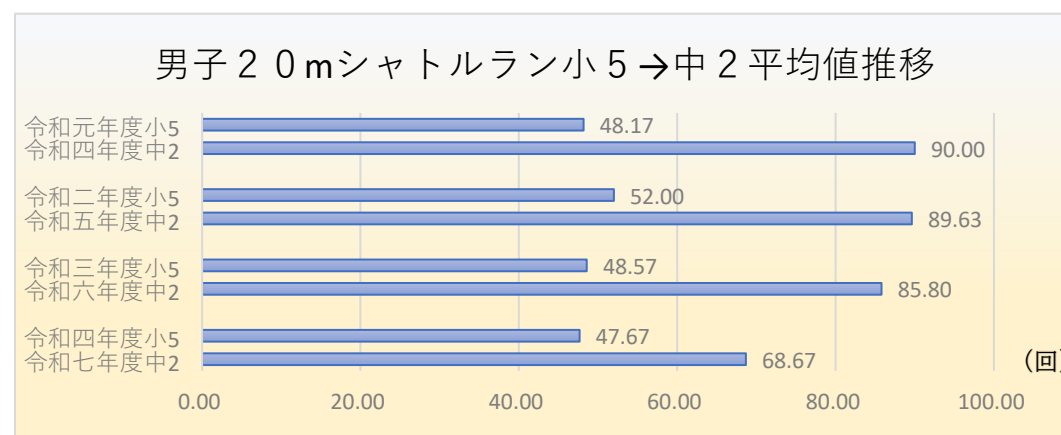
・各種目の全国平均値を50とした場合(T得点)の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表示



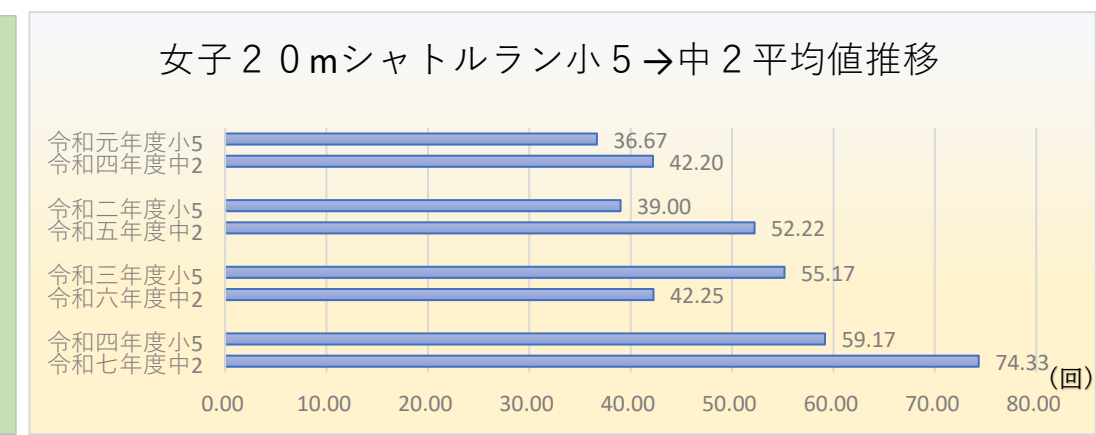
T得点とは、全国平均値に対する相対的位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較したものです。(全国平均を50とした時の数値)



20mシャトルラン (持久力) 推移



体力の中でも持久力の目安となる20mシャトルランですが、今回は小学校5年生の児童が3年後の中学校2年生の時にどのように変化しているのかを検証してみました。この同じ集団の成長の推移には年度により違いが見られますが、概ね順調に成長しているといえます。ここでも小中連携の重要性を確認することができます。

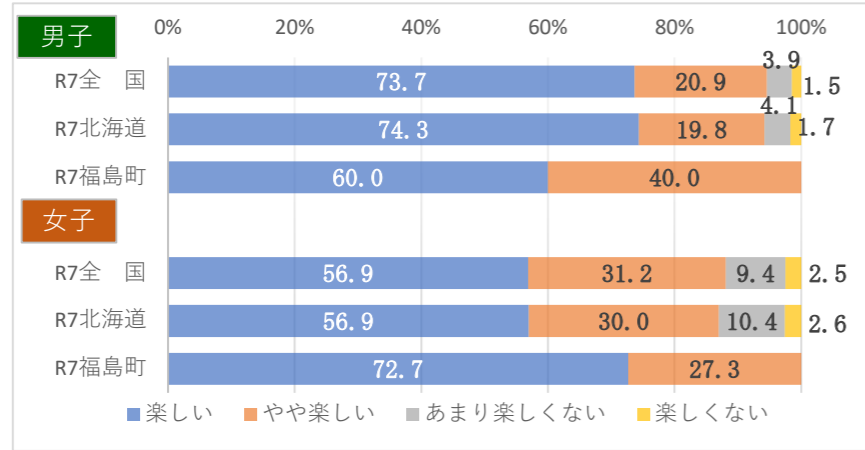


○ 質問調査（児童・生徒質問調査）の状況

小学校

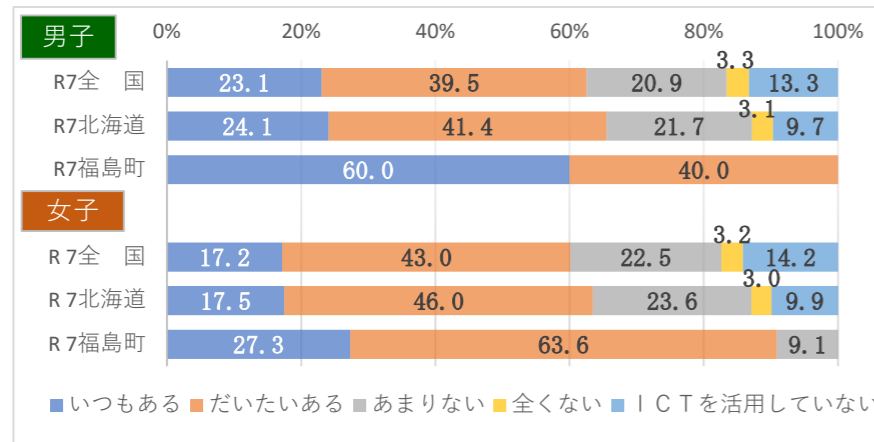
【児童質問調査】

・体育の授業は楽しいですか



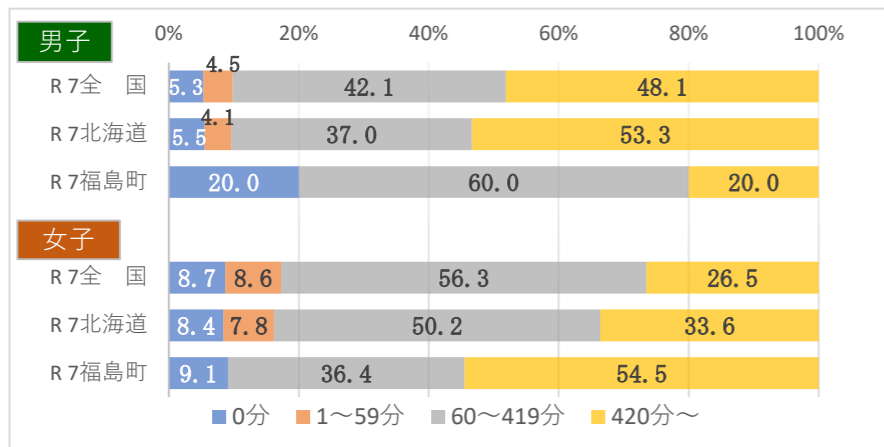
【児童質問調査】

・体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



【児童質問調査】

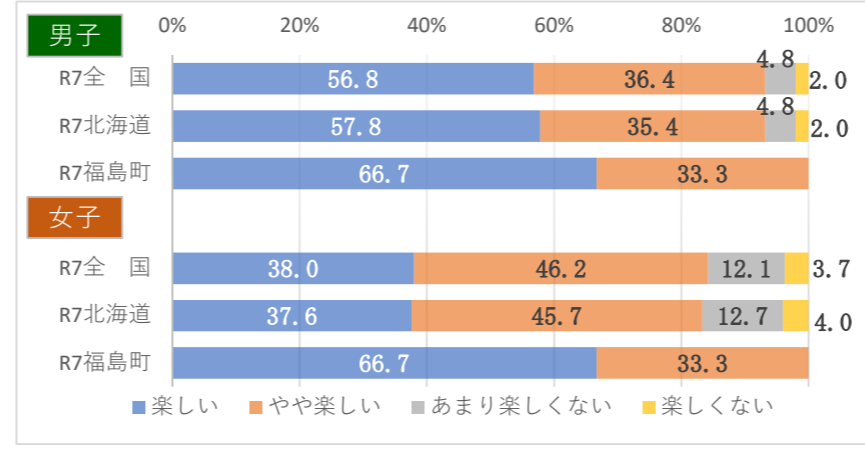
・一週間の総運動時間



中学校

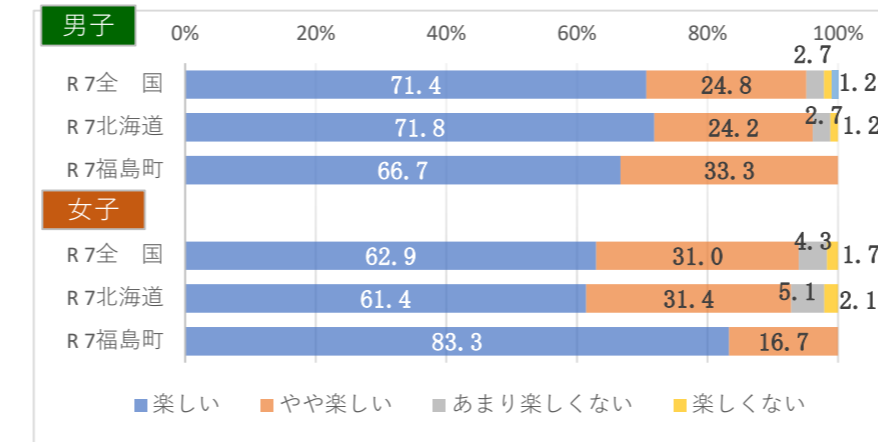
【生徒質問調査】

・保健体育の授業は楽しいですか



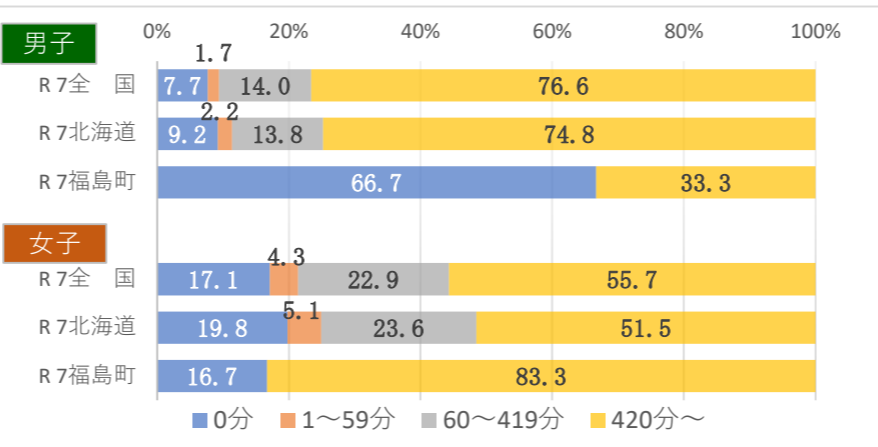
【生徒質問調査】

・どんな時に保健体育の授業が楽しいと感じますか。友達と交流したり、協力できたとき。



【生徒質問調査】

・一週間の総運動時間



調査結果の分析

小学校

【成果】

・小学校においては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、ICTを活用した授業改善を行ったことにより、「体育の授業が楽しい」「やや楽しい」と感じる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【課題】

・全国及び全道と比較して、ICTの活用頻度は高く、学びを深める取組に寄与している面が見られるが、さらなる使い方の工夫を図ることにより、児童が取組を振り返りながら体力面の目標を設定したり、課題解決に向けての取組を授業以外の場面で実施したりするなど、体力向上に取り組む。

中学校

【成果】

・中学校において、研修主題を「よりよく対話し、学びを深める」とし、保健体育授業において仲間と教え合ったり協力したりする場を位置付け、運動への意欲向上を追求してきたことにより、「友達と交流したり、協力できたときに運動の楽しさを感じる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【課題】

・全国及び全道と比較して、保健体育科の授業において楽しさを感じながら意欲的に取り組んでいるが、実技調査で課題となっている「長座体前屈」（柔軟性）について、課題意識をもち、改善を図るとともに授業以外の場面でも体力向上に取り組む素養を育む。

福島町の体力向上に向けた改善方策

・福島町における全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた体力向上や福島アカデミーでの資料の作成及び小中連携の在り方など普及啓発に努める。

・スポーツ庁の「ICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集」を参考にデジタル学習基盤を活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進に努める。

・町で取り組んでいる縄跳び大会や体力テスト、ジュニアスイミングなどへの参加を促す。

・基本的な生活習慣や継続的な運動習慣について、家庭及び地域と連携し、児童生徒の取組のサポート体制を整える。